

あいち病害虫情報 最新情報

平成28年 8月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

晴れの日が多く、気温は高くなる見込み

8月11日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月は平年に比べ晴れの日が多く、気温は高い確率70%、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と見込まれています。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、的確な防除を心がけましょう。また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理に留意しましょう。

イネ紋枯病

イネ紋枯病の発生量は、やや多い状況です。降雨などにより湿度が高まると急激に上位葉に伸展する可能性があります。ほ場内を観察し、発生状況に応じて適宜防除しましょう。

斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の発生量は、8月上旬の調査では、水田内、畦畔雑草とも平年並の状況です。ミナミアオカメムシの生息数が多いほ場も見られます。

普通期栽培品種は、これから出穂を迎えます。畦畔やほ場内を観察し、発生状況に応じて適宜防除をしましょう。

ウンカ類

セジロウンカの水田内での発生量は、平年並の状況です。

トビイロウンカについては、水田内での発生を認めておらず、県内6か所に設置した予察灯にも誘殺されていません。トビイロウンカは、同一ほ場内でも場所により生息数に大きなばらつきがあるので、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら収穫前日数に留意して薬剤防除をしましょう。

ダイズのオオタバコガ、ハスモンヨトウ

ダイズのオオタバコガの発生量及びフェロモントラップにおける誘殺数は、全体的には平年並の状況ですが、ほ場による発生量の差が大きいので注意しましょう。

ダイズのハスモンヨトウの発生量及びフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並に推移していますが、発生量の多いほ場もあります。ほ場で白変葉を確認したら早めに防除しましょう。

果樹の病害虫

チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺数は、平年並の状況です。また、フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市、豊川市など平坦部では少ない状況ですが、スギ、ヒノキ林に近い新城市では8月上旬から再び増加してきました。7月下旬のヒノキ球果の口針鞘数調査結果から、新世代成虫の果樹園への飛来が始まっていると考えられます。今年果樹カメムシ類の餌となるスギ・ヒノキ球果の量が中程度からやや少ないため、新世代成虫の発生量は平年並からやや少ないと予測します。ただし、台風通過後は一時的に果樹園への飛来が増加するので、ほ場への飛来状況に注意するとともに、まとまった飛来を確認した時は防除を徹底しましょう。

チャノキイロアザミウマの粘着トラップにおける誘殺数は、南知多町ではやや少なく、蒲郡市ではやや多い状況です。第6世代成虫の発生ピークは、名古屋8月22日、大府8月24日、愛西、蒲郡、伊良湖8月28日、豊田8月29日、南知多8月30日、岡崎、豊橋8月31日、新城9月4日と予測します（8月16日までの実測値で計算）。ミカン果頂部が加害さ

れる時期なので、発生ピーク予測を参考に防除しましょう。

ナシヒメシクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並からやや少ない状況です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して薬剤防除しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

ブドウは、収穫が終了したら、べと病の防除をしましょう。

モモせん孔細菌病の被害果や枝病斑は見つけ次第除去し、ほ場外に持ち出し埋没するなどして適切に処分しましょう。次作への伝染源量を下げするため、秋季防除を徹底しましょう。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

キクやキャベツほ場に設置したオオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、東三河地域でやや多い状況です。幼虫の成育に好適な条件が続いたので、今後さらに発生量が増加することが予想されます。引き続きほ場での発生に注意し、適切に防除しましょう。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、長久手市、稲沢市でやや多い状況です。サトイモやダイズなどで発生量が多いほ場があります。例年、8月から9月にかけて発生量が増加します。ほ場周辺のサトイモやダイズほ場の被害状況を参考に、ほ場での発生に注意して適宜防除をしましょう。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。キャベツで5月から6月に多発しているほ場が多く見られたので、今秋作においては注意が必要です。ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、やや多い状況です。ほ場での発生に注意しましょう。

ハイマダラノメイガの成育に好適な条件が続いています。アブラナ科野菜は、発芽、定植直後に本種に加害されると、被害が大きくなります。は種から定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。

今後、平年に比べ晴れの日が多く、チョウ目害虫の繁殖に好適な環境が続く見込みです。発生が急激に増えることもあるので、ほ場での発生状況に注意してください。

アブラナ科野菜は発芽から定植初期にかけてチョウ目害虫の防除を徹底しましょう。また、育苗では防虫ネットを設置して成虫の飛来を防ぎましょう。

トマトのコナジラミ類

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（TOCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意して、早期防除に努めましょう。

○ 農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 土壌くん蒸後はしっかり被覆
- 2 適切な保管で誤飲・誤食を防止
- 3 住宅地などの周辺に配慮

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820